

# 小学校教員養成課程における音楽科を学ぶ学生の指導

山内 隆雄

Guidance for trainees in Music Education in elementary school  
teacher training course

Takao Yamauchi

## 1 はじめに

この3月に改訂、告示された小学校学習指導要領の音楽科目標は、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する<sup>1</sup>ことを目指しており、音楽に対する感性を働かせて生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指すことがより明確となった。そのため、従来の目標に加え、音楽表現のための技能や表現の工夫、音楽を味わって聴くこと等が新たに付加され、表現活動、鑑賞活動のすべてにわたって身に付けさせるべき技能が示されている。

これらを児童に身に付けさせるに当たって、指導する教師には、一層の資質や能力、音楽的な技能が求められることになる。

そこで、音楽の授業を展開する際、特に、大学入学までに音楽経験の少ない学生に対して必要な知識・技能を育むにはどうしたらよいか、について、学生の実態に即して研究・実践を行った。

## 2 ピアノ演奏技能及び音楽に関するリテラシー

### (1) ピアノ演奏技能に関するリテラシー

本学は県内私立大学で唯一、小学校教諭一種免許が取得できる大学である。そのため、人文学科こども専攻に置かれた児童教育コースに限らず、心理臨床学科や、人文学科キャリア・イングリッシュ専攻からも多数の学生が小学校免許取得を希望する。小学校では、すべての教科の授業に関わらなければならない、当然、音楽科もその例外ではない。しかし、小学校免許取得希望者の中には、入学時までにピアノを中心とした鍵盤楽器についてきちんと学んだことのない学生や、音楽経験の少ない学生が少なくない。

こうした例は従来にもあったことで、現役の教師の中でも音楽を苦手とする人は、(特に男性に多い)自分が隣のクラスの体育をやり、自分のクラスの音楽を隣の教師に任せるといったことが行われてきた。他教科、例えば国語や算数では考えられないことだが、そこに音楽の特殊性があ

るのかもしれない。しかし、担任が直接音楽の授業に関わることが良いであろうことは間違いない。

大学によっては、音楽科専修のコースを設けているところもあり、音楽教育に対する意識の高い学生を養成することに特化したところもあるが、本学のように、入試の段階で制限を設けず、そのため音楽初心者が数多くいる現状では、限られた教育課程の中で、小学校での音楽活動を行い、指導要領の求める資質・能力を児童に身に付けさせるだけの音楽的な技量をいかに習得させるのかといった問題は、小学校教員養成課程を持った大学ではある程度共通した悩みではないだろうか。

本学で小学校教諭免許取得希望者（1年次）のピアノ初心者の割合は表1の通りである。毎年、半数を超える学生が初心者である。

表1

入学年度	内訳	人文学科		心理臨床学科	合計
		キャリアイングリッシュ専攻	こども専攻 児童教育コース		
2014	希望者	8	13	21	42
	初心者	5	5	11	21
	初心者率 (%)	62.5	38.5	52.4	50.0
2015	希望者	7	13	36	56
	初心者	3	6	21	30
	初心者率 (%)	42.9	46.2	58.3	53.6
2016	希望者	8	15	22	45
	初心者	5	8	12	25
	初心者率 (%)	62.5	53.3	54.5	55.6

## (2) 音楽における知識・理解

学生の音楽経験としては、中学校までは週1回～2回の音楽の授業があるため、歌唱、器楽、音楽づくり（創作）、鑑賞の全ての分野についての学習がなされているが、限られた時数の中で、例えば「校内合唱コンクール」を行うとすれば、当然、歌唱活動にウエイトが置かれることとなり、読譜や楽典については系統的、継続的に指導することが後回しになりがちで、知識の欠如あるいは剥落が見られる。ただし、中、高を通じて合唱部や吹奏楽部の経験を持つ学生は音楽そのものに対する関心も高く、読譜力もある程度持っている。

（2016年度入学生45名に対して行った、読譜力調査）

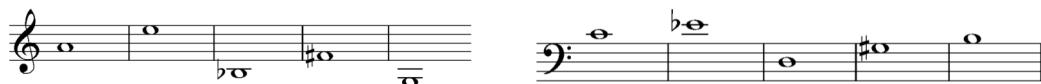
### ① 階名読み a : ト音譜表、へ音譜表

次の音を階名（ド・レ・ミ・・・）で答えてください。

正答率は77%。へ音譜表が読めない学生が17/45人であった。  
ト音譜表においては、加線が入ると正答率が下がる傾向がある。

② 譜表と鍵盤との関係

楽譜上に書かれたそれぞれの音は、鍵盤図上のどれにあたりますか。



※対応鍵盤図

正解者は21/45人であり、当然のことながらピアノの経験と深い関係が認められる。

③ リズムの読譜

「秋の夕日に 照る山もみじ」の歌詞に合うリズムはどれですか。



正答率は82.2%であり、簡単なリズムと言葉の関係については把握できていると思われる。

④ 旋律の読譜

次の楽譜に示されたそれぞれの曲名を教えてください。



正答率は29.8%であり、全く答えられない者17/45人

### ⑤ 鑑賞の知識

それぞれの曲の作曲者名を教えてください。

- (1)「踊る子猫」 (2)「動物の謝肉祭」から「白鳥」 (3)「春の海」  
 (4)「ウィリアム・テル」序曲 (5)「アイネクライネナハトムジーク」 (6)「威風堂々 第1番」(7)組曲「惑星」から「木星」  
 (8)交響曲第5番 ハ短調(「運命」)

- (9)「くるみ割り人形」から「花のワルツ」 (10)「ハレルヤ コーラス」

正答率は10.4%であり、3曲が上限であった。1曲～2曲が判別できる者は34/45人であった。

## 3 研究の仮説

以上のことから、音楽を苦手とする学生の躓きの要因は、大きく、

- ①譜表と鍵盤との関係把握、
- ②旋律の読譜、
- ③鑑賞の知識・能力

であることが分かった。

そこで、次のような仮説を立て、研究・指導を進めることとした。

〈仮説〉系統的、計画的に、音楽に対する関心・意欲を喚起しながら授業を展開することで、読譜力が身に付き、学生が自らよりよい音楽を求め、音楽を愛好する心情を児童に育てることができるのではないか。

## 4 音楽指導の系統

小学校教諭一種免許取得希望者への音楽指導の系統と内容は次のようになっている。

表 2

学年	前後期	人文学科		心理臨床 学科
		キャリアイングリッシュ専攻	こども専攻児童教育コース	
1年	前期	音楽		
		器楽Ⅰ		
	後期	器楽Ⅱ		
2年	前期	小学校音楽演習Ⅰ		
	後期		小学校音楽演習Ⅱ	
3年	前期	音楽科教育法		
			小学校音楽演習Ⅲ	
	後期		小学校音楽演習Ⅳ	
4年	前期		小学校音楽演習Ⅴ	
	後期			

※網掛け部分は必修である。

各科目の主な内容

- 「音楽（小）」：音楽の基礎知識・楽典・ソルフェージュ
- 「器楽Ⅰ・Ⅱ」：鍵盤楽器の基礎技能、歌唱、課題曲の弾き歌い
- 「小学校音楽演習Ⅰ」：学習指導要領の理解、楽典の補充・発展
- 「小学校音楽演習Ⅱ」：コードの理解、伴奏法、器楽の指導
- 「音楽科教育法」：表現・鑑賞における各活動の展開
- 「小学校音楽演習Ⅲ」：鑑賞領域の指導、模擬授業
- 「小学校音楽演習Ⅳ」：歌唱領域の指導、共通教材を中心に模擬授業
- 「小学校音楽演習Ⅴ」：音楽作りの授業展開、授業づくり、伝統音楽の指導

## 5 各科目における指導

### (1) 「音楽」における指導の手立て

中学校までははっきりと時間割の中に組み込まれていた音楽の授業も、高校となると芸術の中での選択制であったり、高校によっては音楽という選択肢さえ無かったりする。また、中学校までは合唱活動に主眼を置いている学校が数多くあり、「歌は歌えても楽譜は読めない」学生が大部分であることに驚かされる。

つまり、楽譜を見ている、歌詞の部分に音の高低を付けている、といった状態である。

そこで、リズムの読譜、音の高さ、階名と音名、諸記号など多方面にわたる音楽理論を1から仕切り直してやらざるを得ない。しかし、授業を展開する中で気付いたことだが、明らかに中学生とは違った視点で捉えることができる、つまり様々なことを論理的に把握できるという点はさすがに大学生である。

#### ① リズムの指導に関する授業の工夫

##### ア. 2拍の基本リズムの習得

20種のリズムパターンを書いたリズムカードを使い、組み合わせることによって、ゲーム形式で定着させる。



##### イ. 拍子感の体得

同じリズムでも、拍子が違えばまったく違う感覚で聞こえてくることを実感するため、次のようなリズムパターンを用い、3拍ごとと4拍ごとの切れ目を入れ、手を叩いてみる。また、ピアノで即興的に付けた旋律を聴くことで、さらに違いを明確にすることができる。



表 3

入学年度	在籍者	初心者		バイエル60番到達者					
		人数	割合%	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期
2011	21	8	38.1	0	3	1	1	3	
2012	23	9	39.1	0	4	1	1	0	1
2013	20	5	25.0	0	3	0	2	*	*
2014	13	5	38.5	0	2	3	*	*	*
2015	13	6	46.2	1	1	0	3		
2016	15	8	53.3	2	3	3	*		

この表から分かるとおり、2年修了時までには、ほぼ60番台まで到達することができる。その後の目標として、1. バイエル教則本を終えること。2 歌唱共通教材については、まず簡易伴奏をできるようになること。3. 旋律とコードにより簡易伴奏を行うこと。を設定し、上位学年の指導に取り組んでいる。

学内のピアノ練習室には、アップライトのピアノが14台用意されている。器楽を学んでいる者は1学年で80名ほどで、それぞれが自分の空き時間を見計らって練習室の貸与を受けている。練習室貸し出し簿には逐次その記録が残っているが、多い学生は週に4回ほど利用している。一方、あまり練習に積極的でない学生は、レッスンのある前日や当日だけ借用したりする。従って長期間にわたれば個人差が出てくるのは当然のことで、2学年以降も教材に簡単な初見の課題を与えたり、唱歌をコードによる簡易伴奏で弾いたりすることで意欲の継続に繋げている。

(2) 音楽理論・知識

前述2-(2)と同じ問題について、2017年7月に調査した。その結果が以下の通りである。

表 4

No.	項目	2016年4月			2017年7月		
		受験者	全問 正解者	正答率 (%)	受験者	全問 正解者	正答率 (%)
1	ト音譜表・ヘ音譜表の階名読み	45	19	77.0	38	35	99.5
2	譜表と鍵盤の関係	45	19	71.8	38	29	95.5
3	リズムの読譜	45	27	82.2	38	35	92.1
4	旋律の読譜	45	2	29.8	38	12	68.9
5	鑑賞のリテラシー	45	0	10.4	38	1	19.7

この結果により、読譜力は各段に上昇していることがわかる。一方、鑑賞のリテラシー（曲名と作曲者）については依然として今後の課題である。毎時間に「今日の名曲」といった時間を設定することも含め、検討していきたい。

### (3) アクティブ・ラーニングの視点

音楽科は、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞といった活動であり、それ事態がアクティブであるが、そのことにより音楽科においてはアクティブ・ラーニングが成立しているとは言えない。活動をする一人一人が自分の感性を通して思考力、判断力を発揮して表現・鑑賞ができるようにならないといけない。

川池 (2016)<sup>3</sup>は、子どもの姿として、

1. どの子どもも自分から進んで発言したり発表したりして、授業に積極的に参加している。
2. 友だちと協力したり音楽を比較したりして、よりよい音楽を自分から求める力が身に付いている。
3. どの子どもも自分らしい音楽は何かがわかり、友だちにそのわけを話すことができる。としている。

また、金本 (2008<sup>4</sup>) は、学校における音楽科教育の目的は、音楽の表現及び鑑賞の様々な活動を通して得られる豊かな音楽体験を重視して、創造性や協調性、社会性、あるいは深い探究心などを育成するとともに、知性と感性の調和の取れた人間を育成すること、そして、抽象性や構構性なども含め、音楽の持つ芸術的な特性を十分に生かして、心豊かな人間の育成に役立てることにある、としている。

児童生徒が音楽活動を行う中で、何らかの発見や驚き、心の波立ちを感じるのは音楽の持つ力に触れた瞬間に他ならない。そのため、指導者が、音楽の持つ魅力や美しさ、深さ、味わいを発見し、紐解いていくことが必要である。音楽に対する関心・意欲を喚起するような働きかけを推進していきたい。

## 7 今後の課題

今回の指導要領改訂でも強調されてきた我が国の音楽についても研究や実践が必要である。我が国の音楽といっても、実に様々なものがあり、それぞれが独自の様式を持ち、比較的、発生当時と変わらず、忠実に保存されている。先人が長い年月をかけて守ってきた伝統を教え、伝えていくのは困難なことではあるが、西洋音楽の台頭の中で廃れさせては実にもったいない。

そこで、発達段階に即したところで、小学生には、わらべ歌などを適宜導入するところから始められるよう、手遊びを取り入れたり、日本の音階の特色について学ぶとともに、その音階を比較的容易に作ることができ、演奏すればそれらしき音が出る楽器として、箏などを使用したりすることが適切だと思われたので、本学も各年度で箏を使用した授業づくりに取り組んでいる。とにかく、子どもたちに「日本の音楽もいいな」と思わせるようにすることが伝統音楽の世界への扉となるはずである。

小学校では学校生活の様々な場面で音楽が必要とされる。学級づくりを始め、特に学校行事においては必要不可欠な存在である。校舎から美しい歌声が聞こえてくるような学校は、そこに学ぶ児童生徒の心の豊かさを感じることができる。音楽活動が限りなく美なるもの、善なるもの、真なるものを求める活動である証である。また、合奏や合奏の活動を通して、一人一人が音楽を創造するための大切な存在となることができる。そう考えれば、音楽活動は学校経営の中核ともなり得る存在である。音楽で培われた力を生かして学校経営に少しでも参画できるよう、指導者



の実力を高めていきたい。

## 注

- 1 小学校学習指導要領 平成29年3月31日告示
- 2 「ピアノ練習 バイエルでは3年おくれる」菅波ゆり子 1983 青春出版社
- 3 「音楽鑑賞教育Vol.27」2016.10.1 公益財団法人音楽鑑賞振興財団
- 4 「小学校学習指導要領 ポイントと授業づくり」2009 東洋館出版社